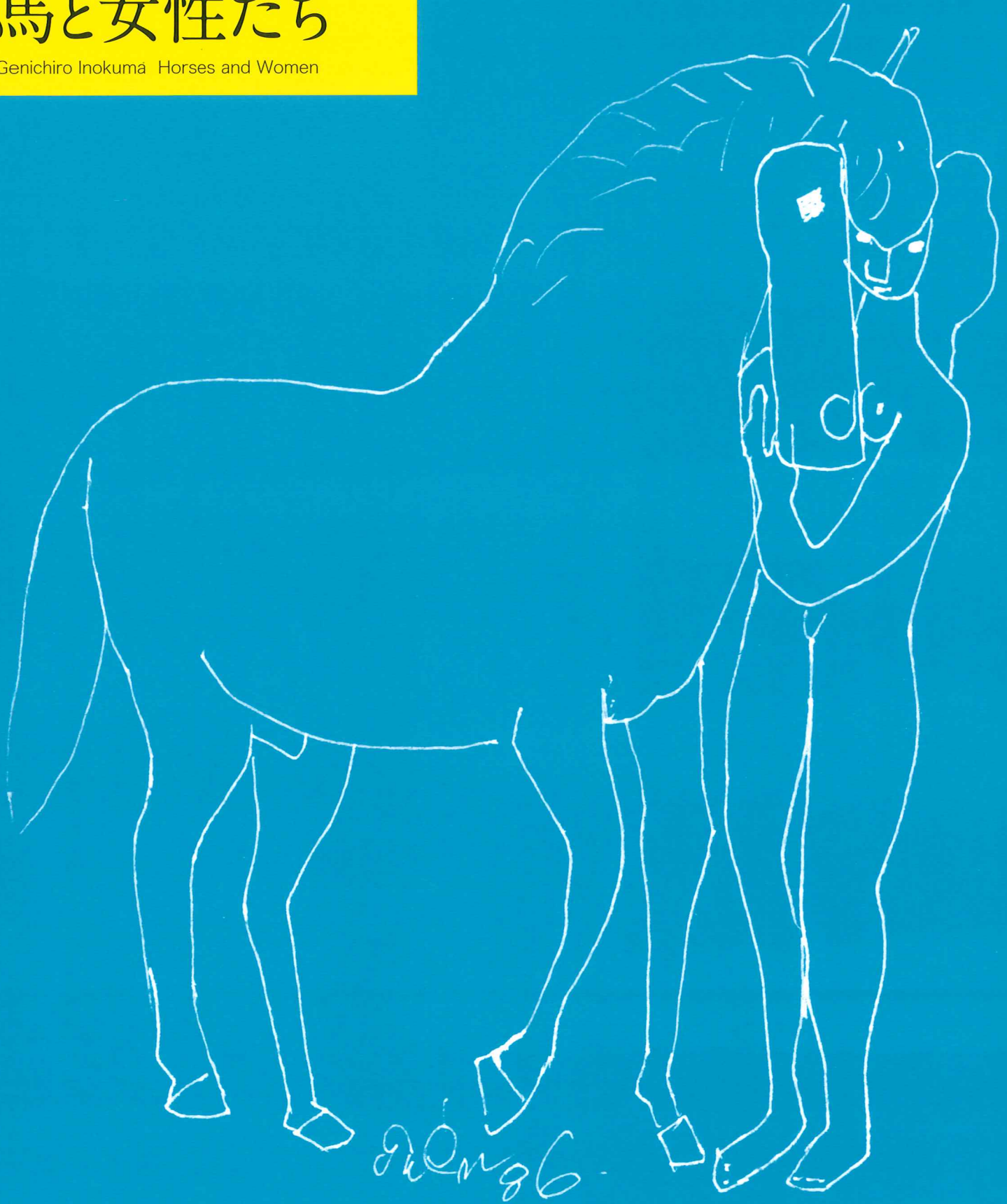


自由な線、自在な形。

猪熊弦一郎展 馬と女性たち

Genichiro Inokumā Horses and Women



2018年10月6日(土) ▶ 12月2日(日)

開館時間 10:00~16:30(入館は16:00まで)
休館日 月曜日(ただし10月8日は開館)
入館料 大人200円 小中高生30円
※毎週土曜日は小中高生無料

主催 公益財団法人馬事文化財団
特別協力 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財団
後援 JRA日本中央競馬会

馬の博物館
EQUINE MUSEUM OF JAPAN

追い求めた色と形

猪熊弦一郎（1902-1993）の作品は、身近なものから人の顔、動物、都市、宇宙にいたるまで様々なモチーフにあふれています。本展は、その中から「馬」と「女性」の絵を集めた展覧会です。

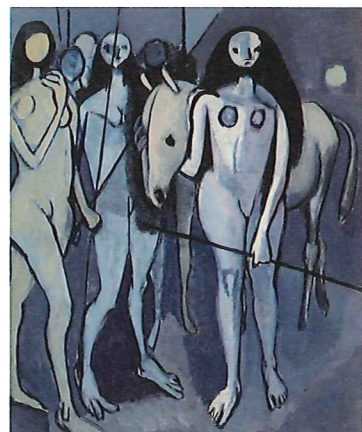
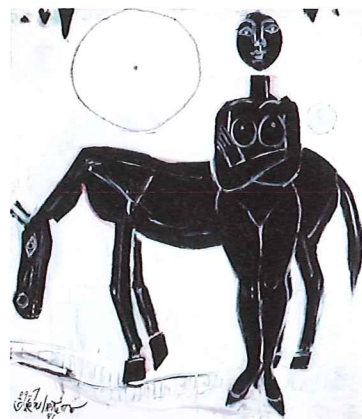
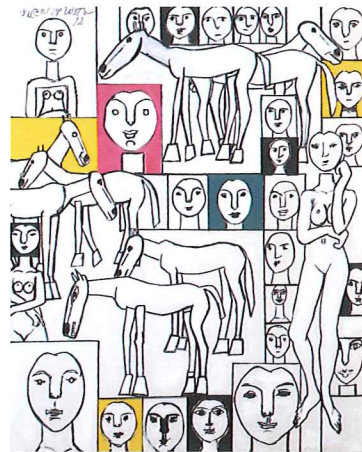
猪熊は馬について「神様の作られた作品の中でも傑作の中の傑作¹」と述べ、また女性についても「あんなに完全にバランスをもった美しい立体はない²」と語りました。画家にとって馬と女性は魅力に満ちたモチーフだったのでしょう。両者は組み合わせて描かれることで、画家にさらなる美しさを見出されました。

本展では、そうした猪熊の美意識に注目しつつ、初期の写実絵画から晩年の自由なスタイルまで、ダイナミックに変貌する作品をご紹介します。馬と女性たちが織り成す色と形の世界をご堪能ください。

1 「七月の馬」『小説新潮』1966年7月号
2 「人体デッサン(1)」『教育美術』1950年5月



【表面】題名不明 1986年 インク・紙
【裏面】(右上から時計回りに)
《裸子3 顔24 馬8》1992年 アクリル・カンヴァス
《黒い裸子と馬》1991年 アクリル・カンヴァス
《馬と女性》1940年 油彩・カンヴァス
題名不明 1985年 アクリル・紙
《サクランゴ》1939年 油彩・カンヴァス
《七月の馬》1966年 水彩・紙
All images©The MIMOCA Foundation
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵



猪熊 弦一郎

画家。1902年香川県出身。東京美術学校で藤島武二に師事。戦前フランスに遊学しアンリ・マティスに学ぶ。1955年再びパリ留学を志し日本を発つが、途中立ち寄ったニューヨークの熱気に惹かれ、約20年間同地で制作する。渡米を機に作風は具象から抽象へと変化。帰国後は東京とハワイを拠点に活動し、晩年は抽象と具象の枠組みを超えた独自の画境に到達した。1991年故郷に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。1993年90歳で逝去。生涯現役で新しい表現に挑み続けた。JR上野駅の大壁画《自由》や三越百貨店の包装紙デザインでも知られる。

—会期中のイベント—

ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日 14:00~
(10月13日、10月27日、11月10日、11月24日)
展覧会担当学芸員による本展の展示解説。
自由参加。当日の入館券が必要。

にんじんタイム

毎週土曜日 13:30~
どなたでも馬ににんじんを与えて
ふれあうことができます。

馬とのつどい2018

11月11日(日)
馬にかかわるイベントがいっぱい!
本展関連イベントも開催。

乗馬デー

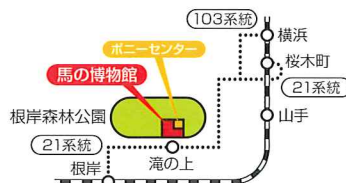
毎月第1・3日曜日 13:30~
当日の入館者を対象に馬車や乗馬の
体験ができます。
※11月4日はのぞく

馬の博物館
EQUINE MUSEUM OF JAPAN

〒231-0853 横浜市中区根岸台1-3 根岸競馬記念公苑
TEL 045-662-7581
URL <http://www.bajibunka.jrao.ne.jp>

交通

横浜市営バス停「滝の上」下車すぐ
▶JR根岸駅 2番バスのりばから「21系統・桜木町駅前行」乗車
▶JR桜木町駅 3番バスのりばから「21系統・市電保存館前行」乗車
▶JR横浜駅東口 7番バスのりばから「103系統・根岸台/本牧車庫前/根岸駅前行」乗車



【公式SNS】
twitter @hanimakun
Facebook @umahaku

無料入館券
(2名様まで)
会期中1回限り
有効

2018年8月31日

プレスリリース

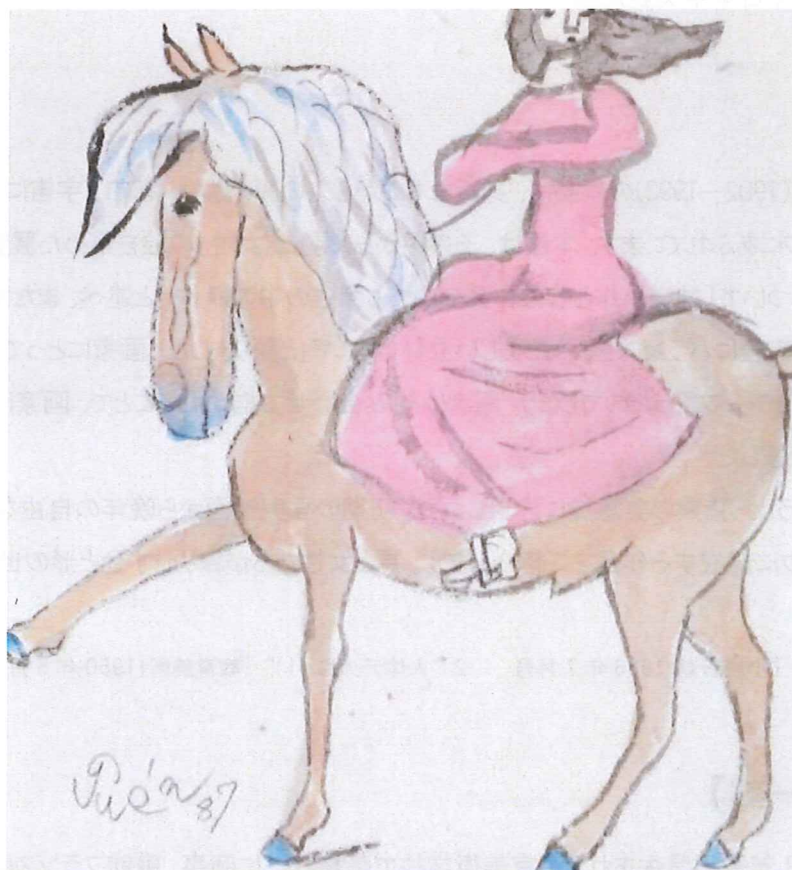
横浜・馬の博物館



猪熊弦一郎展

馬と女性たち

Genichiro Inokuma Horses and Women



猪熊弦一郎 題名不明 1987年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵

©公益財団法人ミモカ美術振興財団

【展覧会概要】

展覧会名 猪熊弦一郎展 馬と女性たち

会 期 2018年10月6日(土)～12月2日(日)

開館時間 10:00～16:30(入館は16:00まで)

会 場 馬の博物館 第2・3展示室

休 館 日 月曜日(ただし10月8日は開館)

入 館 料 大人200円 小・中・高校生30円 団体(20名以上)半額

※毎週土曜日は小・中・高校生無料

※障がい者手帳をお持ちの方は無料

主 催 公益財団法人 馬事文化財団

特別協力 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 JRA 日本中央競馬会

【ご挨拶】

猪熊弦一郎(1902-1993)の作品は、身近なものから人の顔、動物、都市、宇宙にいたるまで様々なモチーフにあふれています。本展は、その中から「馬」と「女性」の絵を集めた展覧会です。

猪熊は馬について「神様が作られた作品の中でも傑作の中の傑作¹」と述べ、また女性についても「あんなに完全にバランスをもった美しい立体はない²」と語りました。画家にとって馬と女性は魅力に満ちたモチーフだったのでしょう。両者は組み合わせで描かれることで、画家にさらなる美しさを見出されました。

本展ではそうした猪熊の美意識に注目しつつ、初期の写実絵画から晩年の自由なスタイルまで、ダイナミックに変貌する作品をご紹介します。馬と女性たちが織り成す色と形の世界をご堪能ください。

1 “七月の馬”「小説新潮」1966年7月号 2 “人体デッサン(1)”「教育美術」1950年5月

【猪熊弦一郎】

画家。1902年香川県生まれ。東京美術学校で藤島武二に師事。戦前フランスに遊学しアンリ・マティスに学ぶ。1955年再びパリ留学を志し日本を発つが、途中立ち寄ったニューヨークの熱気に惹かれ、約20年間同地で制作する。渡米を機に作風は具象から抽象へと変化。帰国後は東京とハワイを拠点に活動し、晩年は抽象と具象の枠組みを超えた独自の画境に到達した。1991年故郷に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。1993年90歳で逝去。生涯現役で新し

い表現に挑み続けた。JR 上野駅の大壁画《自由》や三越百貨店の包装紙デザインでも知られる。

【トピックス】

■馬と女性

猪熊弦一郎がとりわけ造形美を感じていた「馬」と「女性」をモチーフとした作品のみで構成された展覧会。猪熊はよく馬と女性を組み合わせで描きました。組み合わせることで、さらなる美を感じたのでしょう。

■作品の変遷

約 90 点の絵画作品を通して、初期から晩年まで画風がダイナミックに変貌する様子がわかります。馬や女性の描かれ方の変化をお楽しみください。

■色や形の世界

猪熊は色や形に強くこだわっていました。馬や女性はモチーフとして意味を持つというよりも、多くは色や形の集合体として描かれています。馬と女性たちが織り成す様々な色と形の世界をお楽しみください。

【会期中のイベント情報】

○ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日 午後2時より

(実施日／10月13日、10月27日、11月10日、11月24日)

展覧会担当学芸員による本展の展示解説です(約30分間)。

自由参加、当日の入館券が必要。

○乗馬デー

毎月第1・3日曜日 午後1時30分より

当日の博物館入館者を対象に、馬車や乗馬の体験ができます。

※11月4日は、都合により実施いたしませんのでご了承ください。

○にんじんタイム

毎週土曜日 午後1時30分より

どなたでも馬ににんじんを与えてふれあうことができます。

○馬とのつどい 2018

11月11日(日) 博物館入館無料

ご家族でお楽しみいただける、馬にかかわるイベントがいっぱい！

【図版】 展覧会広報用にデータを貸出いたします

1



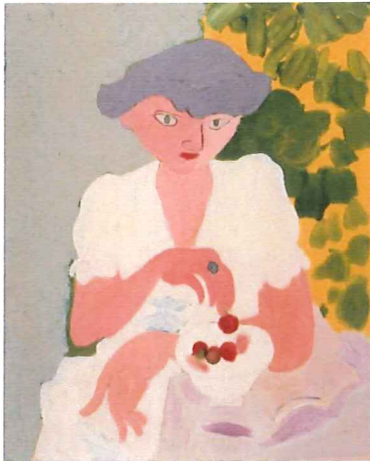
《七月の馬》1966年 水彩・紙

2



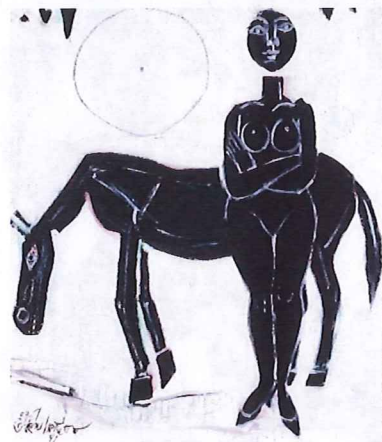
《裸子3 顔24 馬8》1992年 アクリル・カンヴァス

3



《サクラambo》1939年 油彩・カンヴァス

4



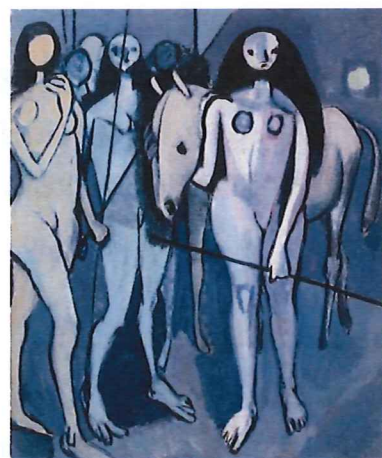
《黒い裸子と馬》1991年 アクリル・カンヴァス

5



題名不明 1985年 アクリル・紙

6



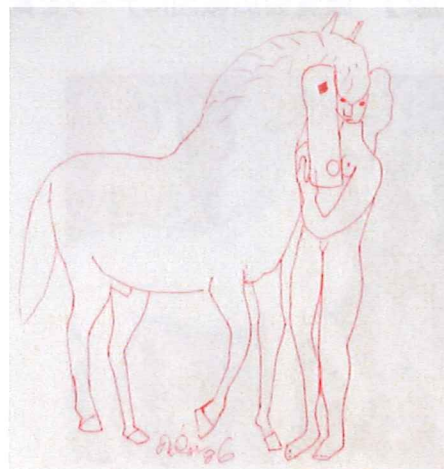
《馬と女性》1940年 油彩・カンヴァス

7



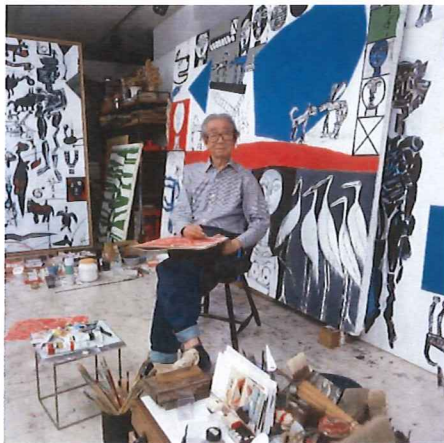
題名不明 1987年 アクリル・紙

8



題名不明 1986年 インク・紙

9



猪熊弦一郎 撮影：高橋章

【すべての作品画像】(No.1~8)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵

©公益財団法人ミモカ美術振興財団 (©The MIMOCA Foundation)

※作品画像をご掲載の際は、①作者名、②作品名、③制作年、④所蔵者、⑤著作権表記の記載をお願い申し上げます。

【猪熊弦一郎ポートレート】(No.9)

撮影者：高橋章

※ポートレートをご掲載の際は、撮影者の記載をお願い申し上げます。(トリミング可)

【お問い合わせ】

公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館

〒231-0853 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 根岸競馬記念公苑

TEL:045-662-7581 / FAX:045-662-7713

<http://www.bajibunka.jrao.ne.jp/uma/>

【展覧会の内容について】:学芸部(廣瀬)

【取材のお申し込み、広報用写真のお貸し出しについて】:企画広報課(伊丹・若林)

【アクセス】

■JR根岸駅から

横浜市営バス 2 番乗り場から 21 系統「桜木町駅前行」に乗車

バス停「滝の上」下車すぐ [乗車時間:約 8 分]

■桜木町駅から

横浜市営バス 3 番乗り場から 21 系統「市電保存館前行」に乗車

バス停「滝の上」下車すぐ [乗車時間:約 25 分]

※21 系統は、みなとみらい線「日本大通り駅」からも乗車可能

■横浜駅から

東口バスターミナル 横浜市営バス7番乗り場から 103 系統「根岸台・根岸駅前・本牧車庫

前」に乗車 バス停「滝の上」下車すぐ [乗車時間:約 30 分]

※103 系統は、京急線「日ノ出町駅」、市営地下鉄「伊勢佐木長者町駅」からも乗車可能

■お車でお越しの方

根岸森林公園駐車場(横浜市運営・有料)をご利用ください。

※第一駐車場:100 台、第二駐車場:100 台 計 200 台

※駐車場には限りがございます。なるべく公共交通機関をご利用ください。

駐車場お問い合わせ:045-641-9185

